

令和 7 年 3 月 10 日

関係機関各位

公益社団法人 2027 年国際園芸博覧会協会
会 長（代表理事） 十倉 雅和
事務総長（代表理事） 河村 正人

会場建設費の変更について（要請）

平素より GREEN×EXPO 2027（2027 年国際園芸博覧会）の開催準備に多大なる御支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

弊協会では、SDGs、パリ協定、昆明・モントリオール生物多様性枠組み等の国際的な目標年である 2030 年の 3 年前に開催される最上位・A1 クラスの国際園芸博覧会として、国内外の幅広い皆様との共創により、環境と共に生きる社会のあり方を示し、地球規模の課題解決に向けた行動と発信を行う重要な機会とすべく、基本計画に基づく会場計画の具体化を図ってきたところです。

今般、会場建設費について、近年の急激な物価及び人件費の上昇による影響やコスト抑制策について精査を行いました。その結果、コスト抑制策に取り組んでもなお、会場建設費の変更（320 億円から最大 417 億円）が必要な見通しとなりました。

このため、閣議了解（令和 3 年 6 月 22 日付「2027 年国際園芸博覧会の開催申請について」）に基づき会場建設費の御負担をお願いさせていただく関係機関の皆様におかれましては、会場建設費の変更について御理解を賜りたく要請いたします。

なお、運営費につきましても、人件費等の上昇による影響や 4 月から開幕する大阪・関西万博の運営状況などを見極める必要があると考えており、入場券価格の検討と併せて今後精査して参りますことにつき御理解賜りたくお願いいたします。

<連絡先>

公益社団法人 2027 年国際園芸博覧会協会

財務部 経理課 045-307-2045

企画調整部 企画課 045-307-2046

〒231-0013 横浜市中区住吉町 1-13 松村ビル本館 5 階

会場建設費の見通し

2025.3.10 2027年国際園芸博覧会協会

- GREEN×EXPO 2027の開催に向けては、SDGs、パリ協定、昆明・モントリオール生物多様性枠組み等の国際的な目標年である2030年の3年前に開催される最上位・A1クラスの国際園芸博覧会として、国内外の幅広い皆様との共創により、環境と共に生きる社会のあり方を示し、地球規模の課題解決に向けた行動と発信を行う重要な機会とすべく、基本計画に基づく会場計画の具体化を図ってきたところです。
- 今般、会場建設費について、近年の急激な物価及び人件費の上昇による影響やコスト抑制策について精査を行いました。
その結果、コスト抑制策に取り組んでもなお、会場建設費の変更に必要な見通しとなりました。

項目別内訳

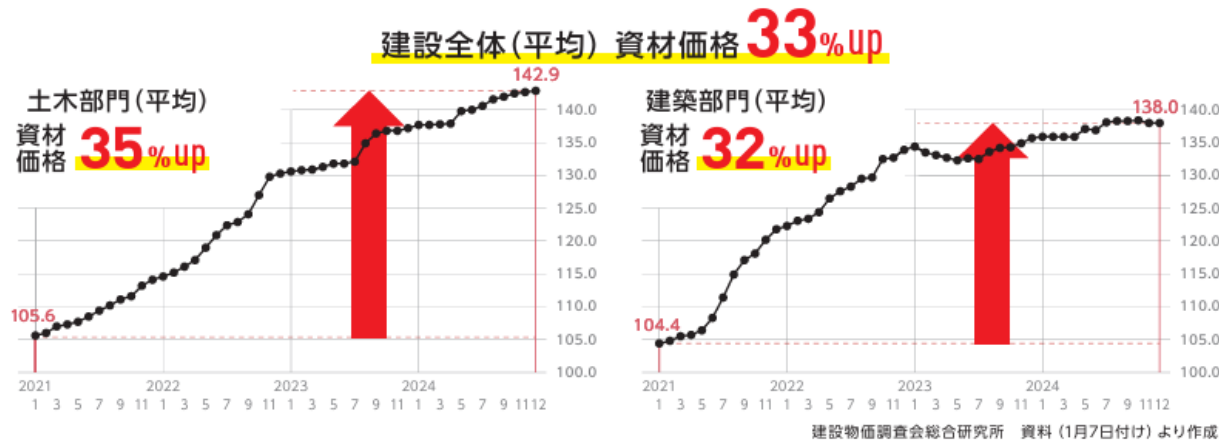
項目	金額(億円)	割合	内容
事業費	397	95%	
基盤工事	98	24%	植栽基盤等 / 給排水設備 / 電気設備 / 園路・広場 / サイン・ベンチ等 / 駐車場・ターミナル基盤（舗装・電気設備等） / ネットワーク設備
造園工事	79	19%	主催者修景（大規模花壇・庭園 / テーマ性のある花壇・庭園） / コモンズ（植栽） / 出展支援（学校等の植栽支援 / 区画間の芝張り等） / 移動式植栽等
建築工事	143	34%	
展示・出展施設	55	13%	主催者の屋内展示施設（内装・展示物製作等） / 出展者向け屋内出展共同施設
行催事施設	10	2%	ステージ / 客席上屋 / 楽屋・倉庫 / 照明・音響・映像設備
サービス施設	49	12%	飲食・物販施設 / 案内所・救護センター等 / トイレ / 休憩所・団体用施設
管理運営施設	29	7%	入場ゲート / 管理施設 / 植物バックヤード・物流施設等 / 輸送本部・輸送運営要員詰所等
調査計画・設計	49	12%	施設設計 / 発注者支援 / 工事監理 / 植物監理 / 環境影響評価
撤去・復旧	27	7%	
予備費	20	5%	事業費の5%相当額
合計	最大 417	100%	

※各項目で単位未満を四捨五入しているため、合計が一致しない場合がある

従前の資金計画策定（2021年）以降、建設工事に係る資材費・労務費はともに大きく上昇

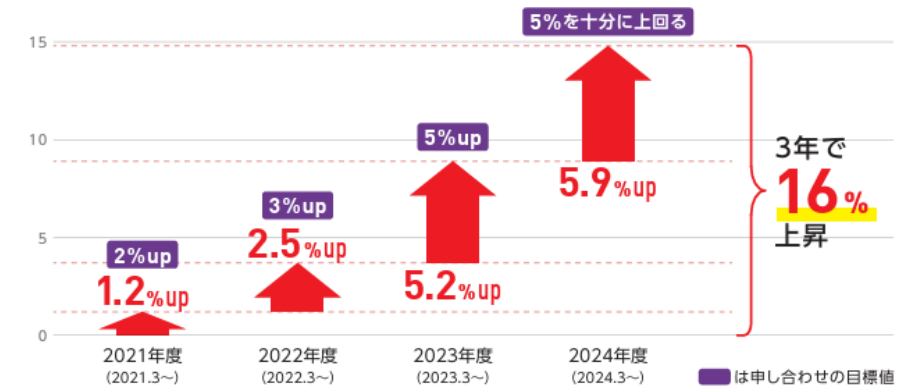
資材費

2021年1月～2024年12月の建設資材物価指数（東京）の推移（2015年平均＝100）



労務費

公共工事設計労務単価(平均)の引上率



《出典》日本建設業連合会「建設工事を発注する民間事業者・施主の皆様に対するお願い」「建設資材高騰・労務費の上昇等の現状」パンフレット（2025年1月版）

物価上昇影響額の試算

今後も同様のペースで物価上昇が続くと仮定して影響額を試算すると、**+111億円（+35%）増加**

単位：億円

年度	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	合計
当初執行想定額※1	—	5	12	41	138	104	11	9	320
物価上昇影響額	—	+ 0.2	+ 1	+ 9	+ 47	+ 45	+ 4	+ 4	+ 111
資材費上昇率（前年比）※2	+ 13.3%	+ 9.7%	+ 3.2%	+ 3.8%	+ 7.4%	+ 7.4%	+ 7.4%	+ 7.4%	
労務費上昇率（前年比）※3	+ 1.2%	+ 2.5%	+ 5.2%	+ 5.9%	+ 6.0%	+ 4.9%	+ 4.9%	+ 4.9%	

※1 当初執行想定額は、年度毎の執行予定額として当初想定していたもの

※2 資材費上昇率は、2023年度までは各年度3月末時点の公表値。2024年度以降は直近4か年平均を用いて機械的に延長した推計値
（2024年度は、2025年1月までの公表値と、2月から3月までは直近4か年平均を用いて機械的に延長した数値とを用いて試算した推計値）

※3 労務費上昇率は、2025年度までは公表値。2026年度以降は直近4か年平均を用いて機械的に延長した推計値

※4 各項目で単位未満を四捨五入しているため、合計が一致しない場合がある

博覧会の演出・機能等を低下させずにコスト抑制を図るため、施設機能の複合化等を行い、**▲34億円（▲8%）削減**

施設機能の複合化 ▲18億円

■ 大催事場

大規模なステージ・客席上屋等の整備を中止。開閉会式を他の中小規模の催事場とテント等のスポット的な追加で開催する想定に変更。

■ 迎賓館

外装・インフラ・廊下等の共用や作業のスケールメリットによるコスト抑制を図るため、他の施設に併設する計画に変更。

大阪花の万博（1990年）における催事場の例



メインホール
(4,000席/本設建築)



シアトル花座
(500席/仮設建築)

簡素化 ▲12億円

■ 営業施設

外装材、足場組み等の作業工程、リース建築の加工・復元等に関するコスト抑制を図るため、建物や植栽・日除けターフ・看板等の配置を工夫し、視野に入らない建物の裏側・側面等の外装を簡素化。

外装装飾あり
(イメージ)



外装装飾なし
(裏側・側面に使用)



実施水準のメリハリ ▲4億円

■ 花修景

材料、花の密度、株あたりの単価等の組合せにおいて、季節ごとの変化など演出を低下させずにメリハリをつける工夫を行うことでコストを抑制。
具体的には、過去の園芸博と同様の1年草による華やかな演出だけでなく、区画によって、宿根草を混栽したナチュラルな演出や、開花時期を調整しながら季節感を出す播種・球根も活用。

1年草による華やかな演出
(イメージ)



宿根草を混栽した
ナチュラルな演出 (イメージ)



今後の予測できない事態にも的確・迅速に対応できるよう、
事業費（予備費を除いた397億円）の5%程度である20億円を確保

確保水準の考え方

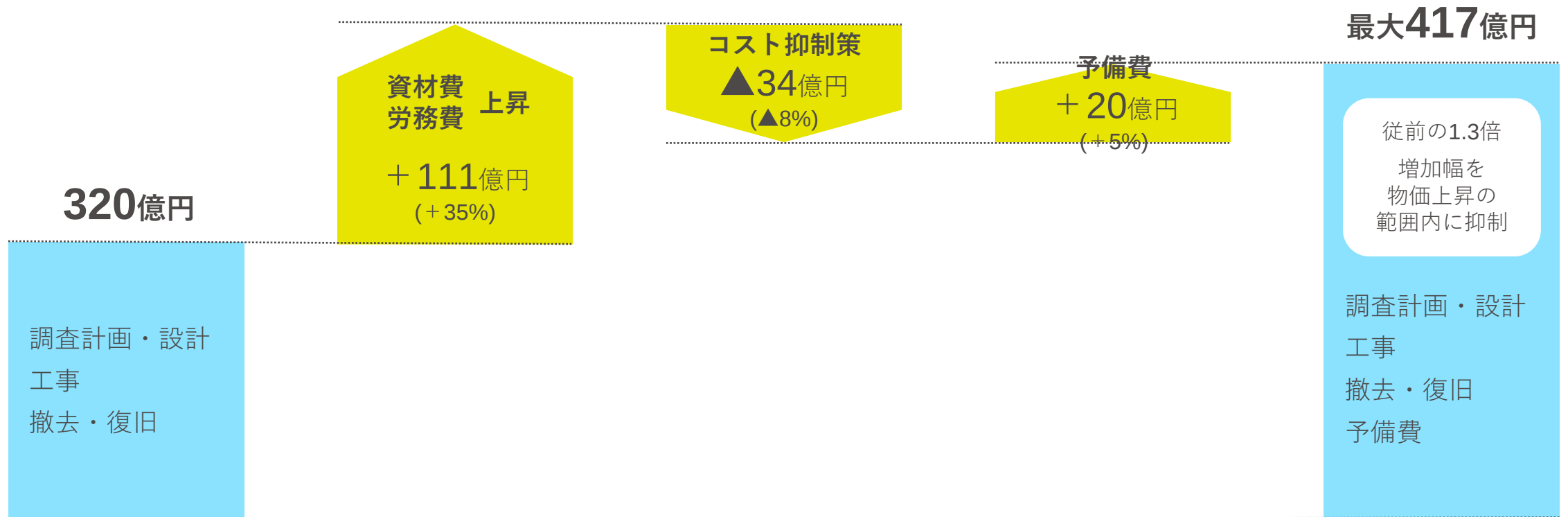
- 今回の物価上昇影響額の試算にあたっては、博覧会終了（撤去・復旧を含む）まで近年と同様のペースで物価上昇が続くことを想定済みだが、博覧会終了まで複数年を残しているため、想定を上回る物価上昇が生じた場合への備えが必要。
- 屋外中心の会場のため気象条件の変化による影響を受けることを踏まえ、異常気象・災害等に対応するための対策強化や緊急補修等への備えが必要。

執行の考え方

- 執行にあたっては、具体的な用途の妥当性について、国・地方自治体での各年度予算編成過程における審査等の機会を通じて、関係機関と十分に協議を行う。

会場建設費の見通し

物価・人件費の上昇の影響、コスト抑制策、予備費の確保を反映し、
最大**417億円**（従前の1.3倍 / +97億円増加）となる見通し



※各項目で単位未満を四捨五入しているため、合計が一致しない場合がある
※図形の大きさはイメージで、大きさと金額は一致しない

《参考資料》 主な整備内容

2025.3.10 2027年国際園芸博覧会協会

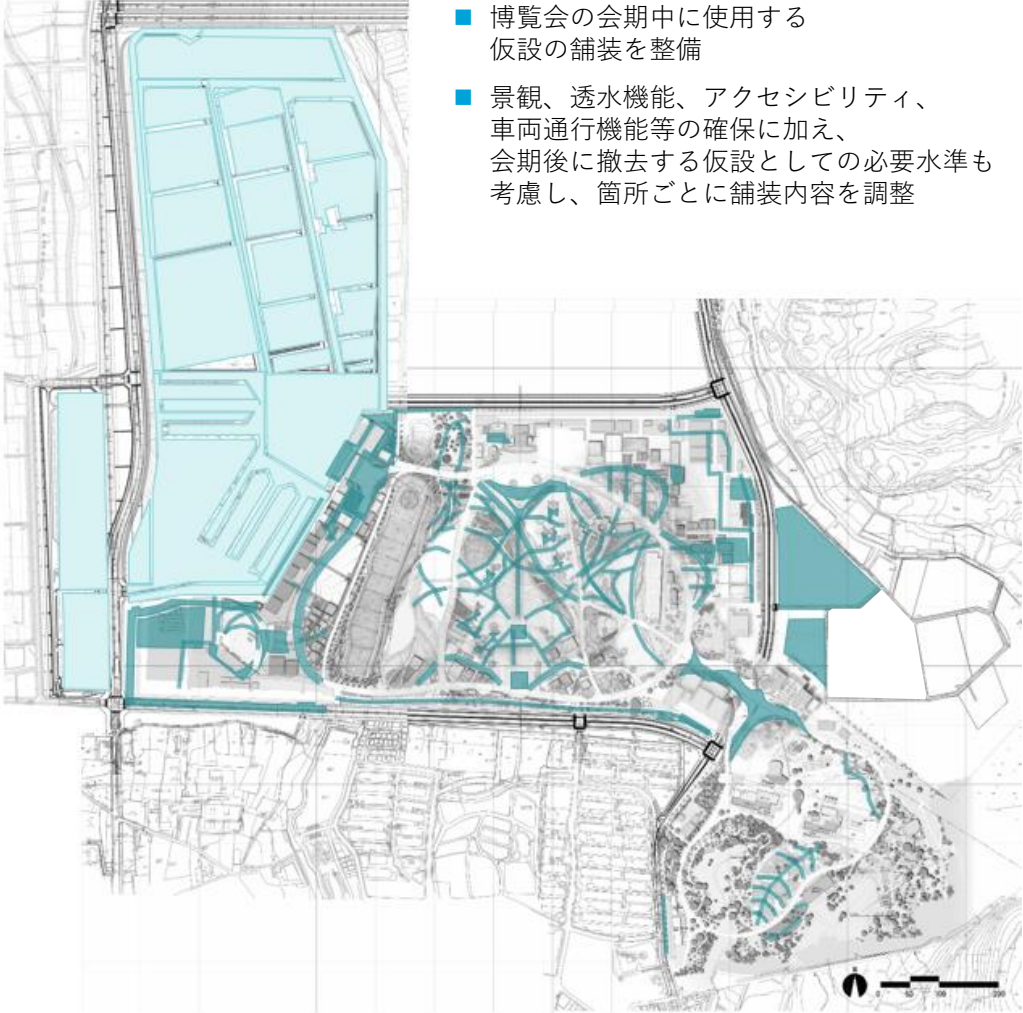


面積	■ 約118.1ha (会場 約75.2ha / 駐車場・バスターミナル 約42.9ha)
来場者数	■ 有料来場者数 1,000万人以上 ■ 1日あたり来場者数 設計基準※ 10.5万人 平日平均 5.3万人 休日平均 7.7万人 ※ゴールデンウィーク等の特異日を除いた最大値から設定
開催期間	2027年3月19日(金)～9月26日(日)

主な整備内容

項目	主な整備内容の例 (想定数量は概数)
植栽基盤等	土壌改良 (10ha)
給排水設備	給水管 (13km) 雨水側溝 (3km)
電気設備	電線 (9km)
園路・広場	舗装 (15ha)
サイン・ベンチ等	サイン・表示板 (840基) ベンチ(1,400基)
駐車場・ターミナル基盤	電線 (9km) 雨水側溝 (9km) 舗装 (37ha)
ネットワーク設備	アクセスポイント (150台)

整備箇所の例（舗装）



- 博覧会の会期中に使用する仮設の舗装を整備
- 景観、透水機能、アクセシビリティ、車両通行機能等の確保に加え、会期後に撤去する仮設としての必要水準も考慮し、箇所ごとに舗装内容を調整



透水性
脱色アスファルト舗装
(イメージ)



透水性
アスファルト舗装
(イメージ)



砂利舗装
(イメージ)

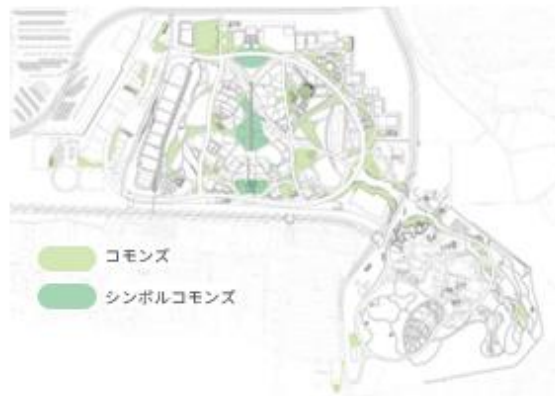
《参考》横浜スタジアムの面積 約2.6ha 横浜駅～川崎駅の距離 約10km

主な整備内容

項目	主な整備内容の例 (想定数量は概数)
主催者修景	大規模な花壇・庭園等 (9ha)
コモンズ	植栽 (6ha)
出展支援	学校等の植栽支援/区画間の芝張り等 (協会整備5ha)
移動式植栽等	コンテナ (170基) ハンギングバスケット (100基)

《参考》横浜スタジアムの面積 約2.6ha

整備箇所の例（コモンズ）



整備箇所の例（主催者修景）



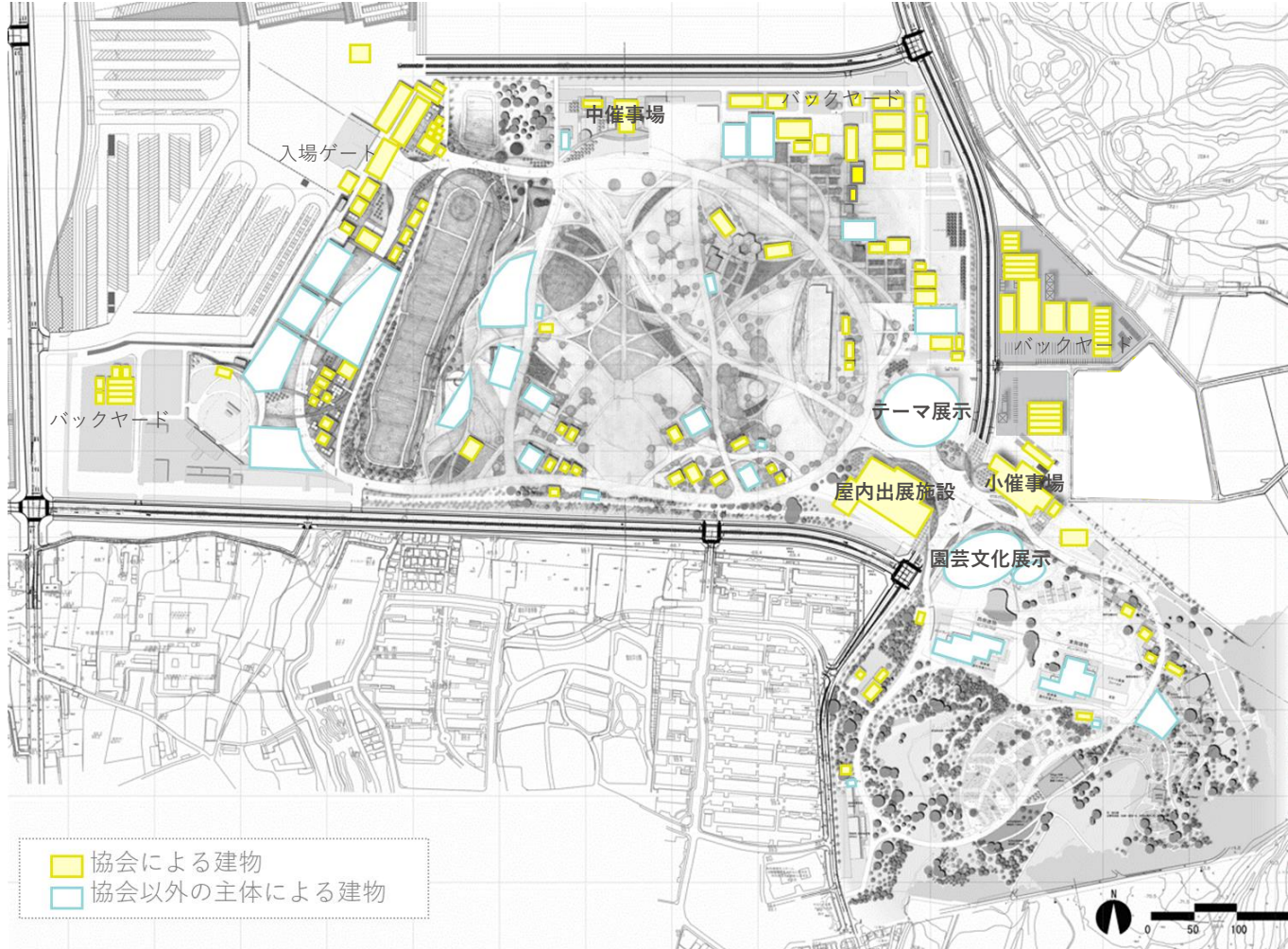
※建物の形状や配置を含め、現時点のイメージ

主な整備内容

項目	整備内容の例 (想定数量は概数)
テーマ展示/ 園芸文化展示	仮設内装・設備、展示物製作等 (テーマ展示 3,900㎡) (園芸文化展示 1,500㎡) ■ いずれも、公園施設として整備される建物の 内部空間を利用
植物交流館	植物交流館 (700㎡) 仮設建築、展示物製作等
屋内出展施設	仮設建築 (4,100㎡)
行催事施設	中催事場 (1,100㎡※・500席) 小催事場 (900㎡※・200～300席) ※ステージ・客席のほか、バックヤードを加えた面積
サービス施設	飲食施設 (8,500㎡) 物販施設 (1,500㎡) 案内所 (340㎡) 複合棟〔発券所・救護センター等〕 (2,200㎡) トイレ (2,300㎡) 休憩所・団体用施設 (2,200㎡)
管理運営施設	入場ゲート (500㎡) / 管理施設 (4,100㎡) 植物バックヤード・物流施設等 (8,000㎡) 輸送本部・輸送運営要員詰所等 (3,200㎡)

《参考》バスケットコートの面積 約400㎡

整備箇所の例（建物）



※協会以外の主体による建物は、現時点の想定であり、各主体との個別の調整状況や検討状況を反映したものではありません

会場整備スケジュール

